

1 研究主題

主体的に学ぶ児童の育成
～学ぶ意欲を育む授業づくりを通して～

2 主題設定の理由

平成 29 年告示の学習指導要領においては、社会の大きな変化に対応しながらよりよく生きる人間を育成することが志向され、育成すべき資質・能力が「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の 3 つに整理された。これらの「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」の育成において大きな原動力となるのが「学びに向かう力、人間性等」である。

本校では、令和 2 年度から「主体的に学ぶ児童の育成」を目指し、1 年次は、「資質・能力」「思考操作」「言語活動」を組み合わせた学習課題を基に、児童の学ぶ意欲を高める単元構成の工夫と主体的な学びを引き出す指導方法の工夫の 2 つの視点を持って研究を進めた。児童自身が学習に対する課題を理解し、見通しをもって活動に取り組める授業づくりの必要性を再確認することができた。2 年次は、研究主題「主体的に学ぶ児童の育成（2 年次）」とし、1 年次の成果と課題を踏まえ、児童が主体的に取り組むことができる授業づくり、及びその具体的な手立てに焦点を置いた研究を進めてきた。

昨年度までの成果をもとに考えると、他教科においても児童が主体的に学ぶ授業づくりをする必要がある。本年度は、「学年末の目指す児童の姿」を明確にイメージし、そのために必要な資質・能力を育むために教師が手立てを取り、自ら学びに向かう児童を育成するために、「主体的に学ぶ児童の育成」という研究主題を設定した。

3 研究の主題について

主題「主体的に学ぶ児童の育成」について

本校の考える「主体的に学ぶ児童の姿」

単元のゴールを理解し、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学びをふり返りながら学んだ力を発揮することができる児童。

副主題「学ぶ意欲を育む授業づくり」について

単元のゴールを明確に示し、子どもと共通理解することで、どのような力をつけようとしているか、その方法はどのようなものかはっきりさせて、教師も児童も学習を進めていくことができるのではないかと考える。また、身に着けたことを児童自身の言葉でふりかえり（アウトプットによる思考の整理）、次の学習につなげることが、学習に対する意欲を育むのではないかと考える。

授業づくりにおける「授業づくりの柱」、「視点」について

複数教科で進めていくことや、年間を通して成果と課題を積み重ねながら研究を進めていくためには授業づくりの柱や視点（授業をみるポイント）が必要である。

授業づくりの柱1 児童の学ぶ意欲を高める単元構成の工夫

- ・・・単元を通して主体的な児童を育成する手立てを取り、児童なりの言葉で学習したことを話す（説明する）ことができる。

授業づくりの柱2 主体的な学びを引き出す指導方法の工夫

- ・・・本時中に意欲を高める手立てを取り、児童が目標に向かって活動することができる。

「わ・が・と・も」に沿ってふりかえりを行う。

→その授業単発にならないように、次の学習や自分のこととして関連付ける。

授業づくりの柱を設定するための4つの視点

研究を進める際の視点	具体的な児童の姿（例）
① 本単元に興味や関心を持つことができるか。	<input checked="" type="checkbox"/> 進んで教材文を読もうとしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 自分の達成したいめあてを持って学習に取り組んでいる。
② 自己のキャリア形成の方向性と関連付けることができるか。	<input checked="" type="checkbox"/> 自らの生活との関連を見つけようとしている <input checked="" type="checkbox"/> なりたいたい自分ややりたいことにつながりを見出そうとしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 新たな学びに目を向けることができる。
③ 見通しを持って粘り強く取り組むことができるか。	<input checked="" type="checkbox"/> 前単元で身に付けた力をもとに本単元でのめあてを立てることができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 何を、どのように学ぶのか説明できる。
④ 自己の学習活動を振り返って次につなげられているか。	<input checked="" type="checkbox"/> 本時の学習をふりかえり、次時のめあてを持つことができる。

4 研究の目標

児童の学ぶ意欲を高める手立ての工夫を通して、主体的に学ぶ児童を育てる指導の在り方を探究する。

5 研究の仮説

授業づくりの中で、「学年末の目指す児童の姿」を各教師が明確にイメージし、そのために児童の学ぶ意欲を高める単元構成の工夫や、主体的な学びを引き出す指導方法の工夫を行うことで、身に着けるべき資質・能力を意識して見通しを持ち、「主体的に学ぶ児童」を育てることができるであろう。

6 研究の内容

(1) 授業づくり

- ア 児童の学ぶ意欲を高める単元構成の工夫
- イ 主体的な学びを引き出す指導方法の工夫

7 研究の方法

- (1) 資料及び文献による理論研究
- (2) 授業研究による実践研究と授業研究
- (3) 講師を招聘しての理論研究を授業実践
- (4) 児童の変容と分析

8 研究にかかる年間計画

月	日	曜	研究会	研究内容
4	5	火	研究推進委員会	今年度の研究概要検討
	13☆	水	全体会	今年度の研究概要説明（本日）
5	18	水	全体会	指導案提示 兼 教科「社会科」指導案検討（6年2組）
	25	水	提案授業 兼 全校研	全体授業研究会①（6年2組）富永啓道教諭
6	8	水	授業研究会	特別支援学級公開授業 なかよし1（知的）教科「〇〇」中島孝子教諭 なかよし2（自・情）教科「〇〇」有森光教諭 なかよし3（自・情）教科「〇〇」白石桂子教諭 なかよし4（病弱）教科「〇〇」峰松彩香教諭 ことば1 自立活動「〇〇」千々岩延泰教諭 ことば2 自立活動「〇〇」永池満寿美教諭 まなび 自立活動「〇〇」山口千恵子教諭
7	6	水	全体会	指導案検討（4年2組）算数科
	13	水		全体授業研究会②4年2組 今村龍教諭
8		水	研究推進委員会	見直し・調整
10			（研推）	
11	9	水	全体会	級外公開授業 年 組 教科「体育」堀川優太教諭 年 組 教科「社会科」横田季子教諭 年 組 教科「外国語」倉富裕太教諭
	16	水	全体会	指導案検討会（1年2組）
12	7	水	全体会	全体授業研究会③ 1年2組 土井聡子教諭
1	25	水	全体会	今年度校内研まとめについて
2		水	全体会	学習状況調査結果分析研修会
			研究推進委員会	次年度の校内研究構想検討
		水	全体会	次年度の校内研究構想提案
3		水	全体会	次年度の校内研究構想確認

9 研究の組織

○主任（富永）・・・研究紀要とりまとめ、講師招聘の確認や連絡、全体研の日程調整

○副主任（小柳）・・・グループ研の日程調整（全体）

○各学年研推委員（◎）・・・各グループ授業研の日程調整と報告、指導案の提出確認

低学年グループ	中学年グループ	高学年グループ
なかよし3 白石	なかよし1 中島 なかよし2 有森	なかよし4 峰松
まなび 山口千 ことば2 永池		ことば1 千々岩
1年 土井 ◎ 森永 2年 中原 ◎ 馬場	3年 小柳 ◎ 渕野 4年 今村 ◎ 西山	5年 花島 ◎ 藤家 6年 萩尾 ◎ 富永 ◎
山口知	横田 上野	堀川（体育） 倉富（英語）

10 その他

- ・研究紀要をデータ化する。
- ・授業実践に重きを置き、研究のとりまとめの負担軽減を行う。